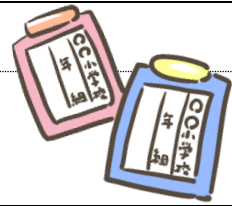


れい わ ね ん ど か み う べ し ょ う が っ こ う せ い か つ や く そ く
令和7年度 上宇部小学校 生活の約束

せ い か つ や く そ く だ れ あ ん ぜ ん あ ん し ん が く し ゅ う せ い か つ や く そ く
「生活の約束」は、誰もが安全に、安心して学習し、生活をするための約束です。



1 服装 【学校には学習をしにきています。】

- 校内ではいつも名札をつけます。
- 安全に学習や運動、登下校ができる髪型や服装にします。

2 持ち物 【学校生活に必要なものを持ってきません。】

- 学習に使用する筆記用具は鉛筆、赤青鉛筆、ネームペン、消しゴム、定規です。
- 学校へもってくるものには、名前を書きます。

3 校内での生活 【落ち着いて生活します。】

- 校舎内は落ち着いて過ごします
- 特別教室は、先生がいない時や用事がない時には入りません。
- 教室移動は、黙って右側を並んで歩きます。
- 次の授業の準備をしてから休憩します。
- 遊んでよい場所は、グラウンド、サブグラウンド、百樹園、中庭、昇降口前です。
※中庭は1年生のみ / 昇降口前は短縄のみ / ボールの使用はグラウンド・サブグラウンドのみ

4 登下校 【安全に気をつけます。】

- 7：40～8：10の間に登校します。
- おうちの人と決めた道で登下校します。

5 校外での生活 【トラブルに巻き込まれないようにします。】

- 午後6時までに（10月～2月は午後5時までに）帰宅します。
- 一度帰宅してから遊びに出ます。
- 人のおうちの敷地に入ったり、大人のいない家にながったりしません。
- 子ども同士でお金の貸し借りやものの売り買いはしません。
- 友だちにもものを買ってあげたり、友だちに買ってもらったりしません。
- 学校の敷地内では、お菓子やジュースなどの飲食をしません。
- 車が通るところや停まっている場所は危ないので、遊びません。
- 校区外や飲食店、ゲームセンターは保護者同伴です。
- SNSやゲームでの通信、タブレットなどの使用については、トラブルに巻き込まれないためにも、
「家でタブレット活用のルール」を参考にして、正しく使いましょう。
- 自転車に乗るときは、命を守るためにヘルメットをかぶります。
- 自転車の乗る範囲は、おうちの人と相談して決めましょう。

校則設定理由

1. 名札の着用:

名札をつけることで、教職員や他の児童が名前を覚えやすくなり、コミュニケーションが円滑になる。

2. 安全な髪型や服装:

学習や運動、登下校時に安全を確保するために、動きやすく視界を妨げない髪型や服装にすることで事故や怪我のリスクが減少する。

3. 指定された筆記用具の使用:

鉛筆や消しゴムなどの基本的な筆記用具を使用することで、学習に集中しやすくなる。また、統一された用具を使うことで、学習環境が整う。

4. 持ち物への名前記入:

持ち物に名前を書くことで、紛失物の回収が容易になり、トラブルを防ぐことができる。

5. 校舎内での落ち着いた行動:

校舎内で静かに過ごすことで、他の児童の学習や活動に支障をきたさないようにする。

6. 特別教室の利用制限:

先生がいない時や用事がない時に特別教室に入らないことで、設備の破損や事故を防ぐ。

7. 教室移動のルール:

教室移動時に黙って右側を歩くことで、混雑を避け、安全に移動できる。

8. 次の授業の準備:

授業の準備を先に行うことで、スムーズに授業を開始でき、学習時間を有効に使える。

9. 登校時間の指定:

決まった時間に登校することで、生活や学習のリズムを整えることができる。また、遅刻を防ぐことで、授業の進行をスムーズにすることができる。

10. 決められた道での登下校:

安全な道を通ることで、交通事故のリスクを減らすことができる。

11. 帰宅時間の制限:

帰宅時間を守ることで、夜間の危険を避け、安全に帰宅できる。

12. 一度帰宅してから遊ぶ:

一度帰宅することで、保護者が、子どもが家に帰ったことを確認できる。

13. 他人の敷地に入らない:

他人の敷地に入らないことで、トラブルや迷惑を避けることができる。

14. お金や物の貸し借り禁止:

お金や物の貸し借りを禁止することで、トラブルを防ぐことができる。また、友達関係に悪影響を及ぼしやすい。

15. 飲食の制限:

学校は学びの場であり、学校内での飲食を制限することで、清潔な環境を保つことができる。

16. 危険な場所で遊ばない:

車が通る場所や停まっている場所で遊ばないことで、事故を防ぐ。

17. 保護者同伴での外出:

校区外や飲食店、ゲームセンターでは保護者同伴とすることで、安全を確保することができる。

18. 通信機器の使用のルール:

正しく使うことで、トラブルに巻き込まれないようにすることができる。

19. 自転車のヘルメット着用:

ヘルメットをかぶることで、万が一の事故の際に頭部を守り、命を守ることに繋がる。